

夢・未来 たからづか創生本部 平成 28 年度 第 2 回本部会議

日時：平成 28 年 10 月 11 日（火）15：30～16：30

場所：3－3 会議室

【次第】

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
議題 1 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）の評価について
議題 2 夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価について
4. その他
5. 閉会

【配布資料】

- 資料 1 夢・未来 たからづか創生総合戦略 スケジュール
- 資料 2 夢・未来 たからづか創生総合戦略 平成 27 年度評価
- 資料 3 夢・未来 たからづか創生総合戦略 体系及び主な担当部長

【出席本部員】※順不同

中川市長、井上副市長、須貝教育長、森上下水道事業管理者、谷本病院副事業管理者兼経営統括部長、上江洲理事、福永企画経営部長、赤井行財政改革担当部長、中西市民交流部長、森本総務部長、尾崎都市安全部長、山中危機管理監、坂井都市整備部長、酒井健康福祉部長、酒井子ども未来部長、影山環境部長、土屋産業文化部長、石橋消防長、和田管理部長、西澤学校教育部長、立花社会教育部長、足立上下水道局長

【議事録】

（1）議題 1 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方先行型）の評価について

中川本部長：議題 1 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方先行型）の評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料 1～資料 2 に基づき説明）

中川本部長：何か質問、意見はあるか。

中川本部長：それでは、議題 1 は、承認ということでよいか。

<異議なし>

中川本部長：それでは、議題 1 は承認とする。

（2）議題 2 夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価について

中川本部長：議題 2 夢・未来 たからづか創生総合戦略の評価について、事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料 2 に基づき報告）

中川本部長：続いて、総合戦略の推進に特に関わりの深い委員に、地方創生への思いや今後の展望、力を入れて取り組みたいことなどの報告をお願いします。

酒井本部員：児童虐待防止に力を入れていきたいと考えている。発生予防、早期発見、再発防止の 3 つ（子ども未来部）を重点的に取り組む。今年度、児童虐待防止対応マニュアルを作成したが、今後 3 年間かけて市内の公立私立の学校園に配布し、マニュアルを徹底していく。また、待機児童の解

消も大きな課題と考えている。特に保育所の待機児童の解消は、子育てと仕事の両立支援に向け重要であり、今年度の取組によって、平成 29 年度当初には、計画に掲げる定員確保が可能となる見込みを立てているが、国が待機児童のカウント方法を見直す動きをしており、潜在的な待機児童についても対応が迫られる可能性があることから、今後、計画目標の変更等、本市がいかに対応していくか検討が必要と考えている。また、貧困対策にも力を入れていく必要があると考えており、庁内の関係各課と連携し取組を進めていきたいと考えている。

西澤本部長：自己表現力を高める授業や学校図書館の充実等により、子どもたちの自尊感情を高める取組推進するとともに、幼小中連携の推進により、生き生きとした子どもたちの姿が広がり、それが地域にも見えるよう取り組んでいきたいと考えている。創造性のある学校園をめざしていきたい。また、いじめや不登校の問題について、いじめや不登校が減少しているとはいえる状況にはなっていないが、SSW（スクールソーシャルワーカー）や支援サポートなどを充実し、きめ細かい対応を図っていきたいと考えている。また、地方創生の取組としては、電子黒板の配置など ICT 教育の充実が図られてきていると考えており、今後もさらなる充実を図っていきたいと考えている。

土屋本部長：市内にある資源を発掘し、魅力を高めるとともに、連携した取組を推進していく。また、それらの魅力の情報発信も大切である。新名神高速道路サービスエリアの活用や海外からのアクセスを意識した情報発信に力を入れていきたいと考えている。今年度は地方創生加速化交付金を活用し、観光協会ホームページのリニューアルやプロモーションビデオの作成、ガイドマップの作成などに取り組んだ。おもてなしに向けた環境整備にも力を入れて取り組んでいく必要があると考えており、今年度は、ダリア園や長谷牡丹園の駐車場の整備、公衆無線 LAN の整備などを行った。引き続き国の財源を確保し取組を充実していく。また、宝塚は学術・芸術のまちとしてのイメージが高く、市民の文化・芸術活動も活発なまちであるので、強みとして生かしていきたいと考えている。文化芸術施設の整備に当たっては、子どもや親がアートに触れる機会を作り、人と生きていくためのセンスを養う場にしていきたいと考えており、子育て世代に魅力あるまちとして伝えていきたい。

立花本部長：文化財をより活用していかないといけないと考えている。市外から訪れる人を増やすとともに、市内の人にも愛着を持ってもらい、定住志向に繋げていきたいと考えている。これまで文化財については、保護という意識が強く、PR するという意識が弱かったと感じる。文化財に限らず、様々な文化資源を面としてとらえ魅力を発信していきたい。スポーツ振興については、4 年後に東京オリンピックが控えていることもあり、スポーツに対する意欲も高まりを見せると思うので、関心を高め、トップアスリートの輩出などにつなげていけたらよいと考えている。そのためには、トップアスリートとの交流などが非常に大事であると考えている。また、今回、花屋敷グラウンドが民間の指定管理者となったが、民間のノウハウを活用し、アピール度の高い取組を行っていきたいと考えている。

尾崎本部長：住宅都市として、インフラをいかに効率的に整備していくかを意識し、取り組んでいきたいと考えている。また、今あるインフラについては、いかに有効に活用できるかを考えていく必要があり、公園などは、市民との協働により、より良い利用がなされるよう取り組んでいく必要がある。

酒井本部長：地域の健康づくりについて充実を図っていく必要がある。全庁的な連携により、エイジフレンドリーシティの取組を推進していく。

中西本部長：住民自治組織のあり方に関する調査専門委員の報告書については、まちづくり協議会に説明し、意見をとりまとめているところである。今年度の取組としては、まちづくり協議会

の活動をより広報できないか検討を行った。現在、ブログなどを活用した情報発信ができないか宝塚 NPO センターと協議を行っているところである。また、市職員が地域に出向き、地域課題の共有を図るため、今月から、まちづくり協議会の定例会に出席する取組を開始した。定例会では、個別課題への対応に向けた話も出てくることから、今後、いかに市として対応していくか検討を行い、体制作りに取り組んでいきたいと考えている。

坂井本部長：空き家対策については、空き家を生み出さない対策も重要となることから、取組の充実を
(都市整備部) 図るとともに、空き家情報の提供、共有等についても庁内で連携し取り組んでいきたいと考えている。都市景観については、宝塚ホテル移転において、景観形成の指導をしっかりと行うとともに、屋外広告物の指導、啓発に取り組む。また、西谷の市街化調整区域における都市計画制度の弾力的運用については、今年度中に条例の素案を作成し、来年度中に制定していきたいと考えている。

福永本部長：地方創生の4つのキーワードは、先駆性、協働、政策間連携、都市間連携である。財源に
(企画経営部) 限りがあり、なんでもかんでも新しい事業をやっていくのが難しい状況にある中、今やらなければいけない事業をいかに地方創生に絡め、交付金等を活用できるかを考えることが大切である。例えば、スポーツ×観光、文化×福祉の政策間連携など、これまであまり全庁的に意識できていなかった部分を今後意識し取組を考えていく必要がある。

中川本部長：今後も皆で知恵を出し合い、協力して取組を進めていきたいと思う。それでは、議題2は、承認ということでよいか。

<異議なし>

中川本部長：それでは、承認とする。本日の議事は全て終了した。その他、連絡事項等、事務局から何かあるか。

事務局：特になし。

中川本部長：それでは、閉会とする。